

平成29年1月5日 現在

		問1 空港・駅				
		(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
DPI日本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者は音声で放送設備にて、聴覚障害者は映像+音声にて、知的障害者はモニター等の映像で伝えてほしい。 ・自分のいる建物で災害が発生しているのであれば、施設スタッフからの情報になる。 ・待機するか、避難するかで変わる部分があると思う。逃げ方も変わるがしばらくはその場にいる方がよいと考える。 ・火災で火が目の前であれば避難しなければと思うが、目の前になければ動かない方がよいと考える。 ・指示を待つ状態で情報をうけることになると思うので、指示を出す人にかかっていると思う。情報も的確に発信してほしい。 ・逃げる方法も情報に関わると思う。エレベーター、スロープ等があれば何で逃げるのか、そういった情報も提供してほしい。 ・人的誘導で避難していくことになる。 ・その場所と知っている、知らないという点でも対応に違いがあると思う。 ・基本的には様子をみながらの行動になる。仮に障がい者用の避難経路があったとしても実際に避難となると健常者も利用すると思われる。むやみに動かないで様子を見ることになると思う。 ・パニックを起こさないよう落ち着いた避難誘導を行ってほしい。 ・東日本大震災時に●●空港にいたが、各エレベーターの前に警備員が配置され、落ち着いてください、大丈夫です、と誘導を行っていた。よく訓練されていると思いました。 ・空港であれば施設が耐震、耐火上問題ないと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のいる場所に対して、震源、震度を知りたい。 ・自分のいる建物が大丈夫かということを知りたい。 ・地震の場合、避難経路がひとつしかないときにその経路がなくなったときの対応。 ・設備ではなく、施設スタッフからの情報を知りたい。 ・火災で考えるとホテルにいるときが一番怖い。特に宿泊室にいて逃げ遅れることが一番怖い。 ・地震が発生したら、海に近いときは津波の有無を知りたい。 ・●●(インターネットサイト)の災害情報はわかりやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人的対応を行ってほしい。避難誘導を行う人は避難誘導者:障がい者が1:1の必要性はない。同比が1:10でも構わないので、避難誘導を行う人が引張って行ってほしい。 ・補聴器使用者はパニック時に周辺が騒がしいと思うので、思うように聞き取りができないう想定される。こういった面でも人的介助が必要。 ・聴覚障害者は煙に対して感覚が弱いので、人的介助が必要。また、停電も苦手である。 ・補聴器の電源を確保して避難する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設スタッフの避難に関して障がい者の特性についての教育を徹底してほしい。的確な指示を出せば指示に従えると思うので。 ・聞き取りを行うのではなく、避難訓練等をより実践的な形で行い、障がい者も参加して行うことで対応案、マニュアルを整備していく方がよいと思われる。 ・施設スタッフしか知らないような情報を掲示等により日頃から知らせてほしい。例えば地下鉄等で浸水する可能性がある、避難経路が記載してある配置図等。このような情報を日頃から掲示しておけば災害時にも落ち着いて行動ができると思う。 ・車いす使用者の階段での移動に関して避難階段車の設置を行ってほしい。空港等は階段も広いので人力でも障がい者を下すことはできるが、ホテルであれば階段もせまいので人力は不可と考える。設置した場合に点検を十分におこない、いつでも使えるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・煙に対して呼吸器障害者は特に弱い。優先的に避難させてほしい。施設スタッフはこのようなことを理解し、認識してほしい。 ・繰り返しになるが、設備等のハード面より人的対応のソフト面の方が重要と考える。 ・避難訓練を障がい者も一緒にを行い、繰り返し行ってほしい。日頃から障がい者に対する認識を深めることで災害時対応も可能になると思う。 ・障がい者の中には自己主張のできない、弱い人もいる。そのような人への対応も必要。 	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問1 空港・駅					
(1)情報伝達・方法		(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
<p>日身体障害者団体連合会</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声、スマホ、デジタルサイネージ等有効な手段と考える。 聴覚障害者に対して文字情報等も必要と思われる。 火災、地震はどの程度のもので話をすればよいか？(⇒大規模なもので避難が必要な状態を想定) 人的な対応で情報を伝えることも大事である。 避難動線を確認し、その動線を伝えてもらいたい。 ●●(施設名称)の避難訓練は実際に障がい者が参加し訓練を行っている。車いす使用者を人力で降ろしてもらったことがある。 東日本大震災時に●●(地名)にいましたが、全く情報がありませんでした。地下鉄に向かったときに、アナウンスが流れている程度でした。その後、誰だか分かりませんが、プラカードを持った人がでてきて避難誘導を行っていました。誰が情報を流すかも重要と思いました。マニュアルを整備し、その手順通りに避難誘導を行うことが大事と思う。マニュアルの作成や整備にあたっては、障害当事者の方が作成に参加したり、あるいは障害当事者の意見が反映されたものにしていただき、安全に避難誘導できる体制をはかっていただきたい。 車いす使用者はELV使用を望む。 車いす使用者の上下移動の対応(階段避難車等の設置)を準備してもらいたい。また、そのような設備を設置してあることを表示等でわかるようにし、実際に使えるようにしないといけないと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> どこで何が起きているかを知らせてほしい。火災の場合は発生場所、地震の場合は震度、震源等。 情報が錯そうすることが考えられるので的確な情報を伝えてほしい。そのような情報を1秒でも早く伝えるという姿勢で伝えてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 車いすは人的な対応が必要。特に地震等で物が通路に散乱していると自力では逃げられないと思う。介助が必要と考える。 安全が確保された避難が一番大事と考える。人的対応によって避難場所まで避難を行ってほしい。 火災では避難場所まで逃げ切れない可能性もあると思うので、一時待避場所待機してから避難することもよいと思う。 一時待避場所のようなスペースを設けることを配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人的対応において、施設スタッフ(一般の人も含めて)に障がい者の種別(視覚、聴覚、車いす等)を理解してもらい各々の避難方法を教育してもらいたい。また日頃から障がい者と一緒に訓練を行うことで災害時の的確な対応ができると思われる。 上下移動を行える車いす(階段避難車)をたくさん常備してほしい。 地震で物が散乱しているとストレッチャーよりたんかの方がよいと思われる。たんかの準備もしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 車いす使用者には非常用エレベーターを避難時に使えるようにしてほしい。

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問1 空港・駅					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
日本盲人会連合	<ul style="list-style-type: none"> ・前提として、人的配慮が必要。 ・緊急放送ということがわかる音声 ・スマートホンで音声を流せる環境を作してほしい。 ・施設スタッフによる情報提供・弱視者であれば電光掲示板、デジタルサイネージでも可。 ・火災時であれば弱視者用の誘導サイン・空港、駅は広いので災害発生時にいる場所に対応が違ってくると思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災は「どこで起きているか」、地震は「津波がくるか」を知りたい。 ・本間では火災か地震になるが、災害の種類を教してほしい。 ・「発生場所・発生源」、「避難方法及び避難場所」、「対処方法」を知りたい。 ・「緊急性」を明確にしてほしい。火災であれば体を低くして逃げる、地震の場合危険場所がどこであるかを知らせてほしい。 ・火災の場合、復旧の見込みがわかるのであれば教えてほしい。 ・施設周辺の情報もほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人的誘導で避難する。 ・音声警報、映像装置(デジタルサイネージ等)で知らせる。 ・避難経路を明確にして誘導してほしい。 ・施設スタッフだけでは人手がたりない。日頃から一般の人に啓発してもらい、災害時には一緒に避難してもらえよう配慮してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人的誘導は必要。さきにも述べたが、施設スタッフだけで避難誘導はできない。日頃から一般の人を含めた第三者による避難誘導を行ってもらえよう訓練が必要。 ・人に頼らないことを想定すると、点字ブロック、手摺による誘導を支援する設備が必要。避難経路では必ず設置してほしい。 ・食料の備蓄を行ってほしい。 	(4)と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

		問1 空港・駅				
		(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
全日本ろうあ連盟		<ul style="list-style-type: none"> 映像、モニターで確認する。 デジタルサイネージは何か所かに分けて設置してあった方がよい。 音声、デジタルサイネージ、スマートフォン、フリップボード全てであった方がよい。 視覚的且つ瞬間的に判別できるようにするため、「光による案内」は色別(例:赤⇒火災、青⇒地震、緑⇒津波)ができるとよい。 ●●(鉄道事業者)が実施しているテロップ(LED表示)はよい。 エレベーターでエレベーター停止時には音声のみでの対応が多いと思われる。画像が映るものは手話対応できればよいと思う。 手話通訳者がいればベストであると考える。 手話のわかる人がいると心強い。 	<ul style="list-style-type: none"> 「どこで起きたか」場所を知りたい。すぐわかるような表示が望ましい。 避難方法を映像で知りたい。 火災時は火災の内容に合わせて表示してほしい。(ボヤ程度、延焼が広がっている等) 「どこで何が起きた」、「火災のときは発生源の場所、地震は震度」、「本当の火災なのか、誤報なのか」、「避難の必要があるかないか」を知りたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的な情報で伝えてほしい。簡潔に箇条書きが望ましい。 避難に関しては車いすのろうあ者、全盲のろうあ者もいるので車いす、視覚障害者にあてはまるものも考慮する必要がある。 聞こえない人がいたら、災害情報、避難情報、避難所における必要な情報(救援物質、食料の配給等)を教えてください。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像、モニター等の視覚設備を設置してほしい。 モニターによる手話対応も設置してほしい。 	(4)と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問1 空港・駅					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	<p>・聴覚障害者は多様な方々がおられ、伝えてほしい方法もまちまちです。聴覚障害の状況により異なります。大きく分けて以下ようになります。</p> <p>①高齢により聞こえにくくなったが補聴器等を使用していないという方が、約1000万人以上</p> <p>②補聴器や人工内耳を使用している方が約200万人。</p> <p>③その中で、手話を活用している方が約10万人と見込んでいます。</p> <p>・①において音声で伝える場合、ゆっくり、明瞭にしゃべることが大事だと思います。・相手と視線をあわせて説明することが大事です。</p> <p>・映像、文字等見てわかる情報で知らせてほしい。</p> <p>・②の補聴器で対応できる人も上記の方法が有効です。加えて、読話、手話ができる方にはあわせて使用して知らせてほしい。</p> <p>・補聴器では周りの音が大きいと、必要な音が聞き取れないときがある。このようなことを考えると視覚による方法の方がいいかもしれない。</p> <p>・多種多様な手段で知らせてほしい。地域エリアメール、NET119緊急通報システム(消防とチャットで通信できるもの)がある。</p> <p>・緊急地震速報のように、災害情報を音だけでなく振動でも伝えられるものがよい。</p>	<p>・身の安全にかかわる情報が一番大事と考える。</p> <p>・地震、特に津波が一番心配である。</p> <p>・地震の場合、震度、震源の深さ、津波の有無を知りたい。</p> <p>・火災の場合、自分のいる建物が火災であるとき、難聴者は気づきにくい。自分の部屋にいて火災があり、火災に気づかず部屋にいて消防隊に怒られたことがある人がいます。</p> <p>・ELVが止まったときの対応を伝えて欲しい。</p> <p>・気象庁の地震速報は活用している。自分のいるところから、知合いのいる遠隔地で地震があったときには情報を伝えたいと思っている。</p> <p>・本問の直接の回答ではないが、TVはないと困る。</p>	<p>・避難が必要な場合は誰でもわかる方法で、強く訴えることが大事。最近あった●●(報道)の「逃げる」表示はわかりやすく、よかったと思う。</p> <p>・避難時は情報が聞き取れない可能性があるため、繰り返し連絡してほしい。</p> <p>・避難情報はタイミングが大事と考える。</p> <p>・聴覚障害者は受け身になりがち。音声情報が入りにくいので、従来、判断基準が少なかつた。小さいころからこの状態にいると、意思決定に影響することがある。(自分で決められない。)このため周りを見て付和雷同的な判断をしがちな方もいる。</p> <p>・明るさ-照明等の電源は重要。</p> <p>・携帯による情報入手方法が大事と考えるので、情報端末の充電方法は大事と考える。</p>	<p>・人的対応を行ってもらえると安心します。手話のわかる人がいれば更により。</p> <p>・コンシェルジュの対応はよいと思うのでもっと普及してほしい。</p> <p>・音声文字等に変換するアプリをもっと充実してほしい。</p> <p>・聴覚障害ということがわかるようにしてほしい。「耳マーク」をもっと一般の人に理解してほしい。</p> <p>・施設スタッフが障がい者に対する教育、研修を充実させてほしい。日頃から実施し、継続して行うことが大事と考える。日頃の対応が緊急時にも対応できると考える。この点で●●空港の運営会社はよくやっていると思います。</p> <p>・筆談ボードを設置してほしい。ホワイトボードは濡れているとかけないので筆談ボードはその点問題ありません。</p> <p>・電車が止まっている、遅延しているときの放送がわからないので、テロップをもっと増やして対応してほしい。●●(鉄道事業者)等はボード、紙等に手書きで表示をしているが、これであれば設備投資はかからないと思うのでもっと普及してほしい。手書きでも表示があることが望ましい。</p> <p>・手話が第一言語の人もいます。●●空港は案内所に手話通訳者がいました。手話バッジもつけていました。手話バッジは大きい方がよい、つけていることが見にくいときがあるので。</p> <p>・周りに頼れる人(手話ができる等)がいると心強い。</p> <p>・避難場所ではグループを作ってもらい、その中で表示を行い、手話通訳をおこなってもらいたい。</p>	(4)と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

		問1 空港・駅				
		(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
全国脊髄損傷者連 合会		<p>・音声及び壁紙表示(車いす目線は子供の身長程度なので、壁紙表示の位置は人の頭の高さより上に掲示)。壁紙は電光掲示板等のことであり、シンプルにわかりやすく表示してほしい。</p>	<p>・「注意喚起」、「緊急に退避する」、「避難指定場所へ移動する」の情報提供を簡潔に伝えてほしい。</p> <p>・地下の施設への浸水対策に●●駅で起きたように近隣の工事による浸水被害等予測しがたい災害にも対応ができるようにしてほしい。</p>	<p>・車いす使用者の立場としては、いち早く地上階への退避がベター。</p> <p>・優先度の高い避難の場合では、トリアージが必要になる。</p> <p>・車いすでの外出は荷物が多くなるので、人工呼吸機等の生命維持装置以外の手荷物とは分離し、人命を最優先とする。</p> <p>・カートやキャリーバッグ等を持った人と車いす使用者等が同じエレベーターに乗ると、スペースがなくなるので、同じエレベーターに乗ることは避けた</p>	<p>・人的対応に関しては避難時に期待できないと考える。</p> <p>・ターミナル駅が商業施設と避難経路を供する場合においては、当該複合施設利用者予測の混雑時でも歩行に困難がないものと、エレベーター等を利用しないと避難ができない車いす使用者等の「避難にかかる時間」に差別があってはならない。</p> <p>・エレベーターを避難に利用する方がよいと考える。例えば10階にいて、車いすで1階まで避難することは人的対応では不可と考える。現実的でないと思う。</p> <p>・エレベーターの無停電化とエレベーターのご内部の広さと間口の広さを確保する。</p> <p>・車いす使用者やベビーカー使用者、歩行が困難な高齢者等の移動困難者が迅速に避難するためには、余裕のある動線の確保が必要。</p> <p>・複数の避難路を確保すること。</p>	<p>●●●空港のユニバーサル化の促進。</p> <p>・エレベーター、トイレ、待合所、駐車場等は総合的にユニバーサル化を図ることが必要。</p> <p>・2020年の外国からの観光客数が4000万人、2030年の外国から観光客数が6000万人と予測されている国の目標に合わせての空港整備計画が必要である。その中でも、車いす使用者の外国人利用者が利用しやすいユニバーサル化が必要である。国際線から国内線への乗り継ぎの時間短縮を図る。</p>

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問1 空港・駅					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
全日本頸髄損傷者連絡会	<ul style="list-style-type: none"> 情報伝達に関しては通常の方法で問題ないと考え 避難時において、駅であれば駅員の誘導が適切に行われているかどうか重要。 	<ul style="list-style-type: none"> 火災や地震を問わず、災害が発生したときには「自分のいる場所」と「災害の起きている場所」を明確に伝えてほしい。 頸髄損傷者の多くは電動車いす(重量250kg程度までである。)使用となっているので、階段を人力で下すことは不可と考えている。避難経路の情報をも的に伝えてほしい。(頸髄損傷者は脊髄損傷者より重度の障がいとなっており、電動車いすを使用している比率が高い。) 	<ul style="list-style-type: none"> 先に話したように電動車いすでの避難となるので、上下移動をどのように行かか、上下移動ができる手段・方法を確保することが重要。電動車いすを置いていく場合では、人力による移動での対応となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難誘導を行う人の教育が重要と考える、的確に案内できる知識があってほしい。 設備的にはすべてがバリアフリー化となっていることが望ましい。 上下移動を行う手段が必要。段差のないスロープ状の通路の確保、他にELVも避難に使えれば望ましいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 避難経路はわかりやすいものにしてほしい。複雑な経路ではなく、簡潔でわかりやすい経路を望む。 急な曲り部は通りにくい箇所があるのでスペースの確保が必要。 避難通路に係る部分において荷物を置いてあることが多いと思うが、場合によっては荷物が原因で避難ができない可能性がある。避難通路となる箇所に物を置かないでほしい。

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

		問1 空港・駅				
		(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
全国精神保健福祉 会連合会	<p>・災害があったときの情報発信元がわかりにくい。駅であればいる場所でも異なると思う。ホームにいるのであればテロップ表示を活用した方がよいと思う。駅からの発信ということが確実なので、また今ある設備を使えばよいと思う。</p> <p>・スマホの場合、地震等であれば情報が広域になると思う。駅ごとで流せるようになればよいと考える。駅ならではの情報発信が必要と思う。またアプリの有無にもよるので強制的なメールの方がいいのかもしれない。</p> <p>・精神障害者の一人で外出しているような人は、基本的に情報入手に関して健常者と変わらないと思う。</p> <p>・周りに大勢の人がいる場合、周りの動きに影響されやすい。(健常者も同じだが)・不確実な情報に惑わされたくないで、確実な一つの情報があつた方がよいと思う。</p>	<p>・一般の人でもそうだと思うが、知らない駅で「〇〇口に避難してください」と言われても〇〇口がわからないと思う。端的に示す方法が必要ではと思う。例えば、「〇番線方向へ避難してください」といった内容で伝える方がよい。表示も大きなものを使用する。また構内を色分けして、「〇〇色へ避難して下さい」というのもわかりやすいと思う。</p> <p>・係員の誘導は限界があると思う。どこまで対応できるか、また一人一人に対して十分な説明はできないと考える。</p> <p>・時系列で伝える情報を変える方がよい。最初は避難場所に関して、2番目の情報は火災であれば火元、地震であれば震度震源等といったように行い、繰り返し伝えてほしい。安全を確保することが重要。</p>	<p>・避難に関しては健常者と同じ条件と考えてよいが、コミュニケーションをとりにくい人もいるのでそのような人には配慮が必要である。</p>	<p>・しばらく避難場所にいる場合において、最初の状況では健常者、障がい者が同じ場所において、時間が経過するにしたがいパーテーションのようなもので障がい者を区画した方が落ち着いた状態になれると思う。</p> <p>・薬で落ち着く方もいる。しばらく避難場所にいるようなときには薬を飲むための水は優先的に供給してほしい。</p>	<p>・一般の人に劣る部分があると思う。情報に関しても自分から聞くことが苦手である。伝える側からの情報発信は一次、二次・・・と繰り返し発信してほしい。繰り返すことで精神障害者の方にも情報が伝達できると思うので。</p>	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問1 空港・駅					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
日本発達障害ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 音、光、掲示板などさまざまな方法で情報を出してもらえると安心する 人が丁寧に(個人差はあるが大きな声、ゆっくりした声など)情報を伝えてくれるような方法もあるとよい。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害者は何が起きているか具体的に知りたい人が多く、あいまいな内容を聞いたりすると不安に思う人が多い。 いつまでその場にとどまればよいか(時間など)どうすればよいのかについても具体的な情報を欲しい人が多いと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達障害者は人から声掛けをもらった際に声のかけ方が大きい、ゆっくりなど配慮してほしい事項がある。また、人によって違いがあるので基本的な声掛けを方法を決めるのは難しいが配慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的な情報を伝えてくれる設備(掲示板など)、人などがあると助かるのではないかな。不安を与えない配慮が必要。 	特になし

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問2 競技場・観客席				
(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
DPI日本会議 問1と同じ	問1と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・電光掲示板等でピクトグラムを用いたわかりやすい避難誘導をしてほしい。 ・基本はすぐに動かない。避難時に避難口に人が殺到していると思われるので様子をうかがってから行動したい。一度に避難することは難しいのでブロックごとの避難を行った方がよいと思う。的確な指示での避難誘導を行ってほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設スタッフの教育を徹底してほしい。避難誘導は落ち着いて行ってほしい。 	問1と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問2 競技場・観客席					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
日本身体障害者団体連合会	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ	<ul style="list-style-type: none"> 施設側の訓練を十分に行い、スタッフに教育してほしい。運営者だけで運営を行うのではなく、施設側も対応できるようにしてほしい。 避難訓練を徹底してほしい。一朝一夕にはできないと思われる。日頃から意識して行うことが重要。また避難訓練マニュアルを作成し、障がい者も参加して行う。 マニュアルは必要と考えるが訓練等で気づいた点を更新していき、実践的なものとしてまとめてほしい。 新築するときは設計段階で障がい者、高齢者の意見を聞いてほしい。 	問1と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問2 競技場・観客席					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
日本盲人会連合	問1と同じ	問1と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・人が多いので、介助者と離れたときは周りの人に聞いて避難する。繰り返しになるが一般の人への啓発が重要と考える。人が多い点は一番不安である。パニックにより1ヶ所への避難が集中したときの圧死を避けなくてはならない。 ・人による介助が必要。弱視者も誘導灯だけではわかるか疑問。 ・避難経路は1ヶ所に集中しないよう複数用意してほしい。出入口を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・放送は多言語対応の必要がある。 ・視覚情報にて確認できないものを、音声にて災害の現状を流してほしい。 ・フラットな避難スペース(一時待避場所、踊り場等)が必要。特に火災で逃げ遅れた場合には重要と考える。 ・点字ブロック、手摺、音声案内、ブザー等を必ず設置してほしい。 	(4)と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問2 競技場・観客席					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
全日本ろうあ連盟	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問2 競技場・観客席				
(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
<p>全日本難聴者・中途失聴者団体連合会</p> <p>・たくさんの方がいるので聴覚情報が伝わりにくいと思う。視覚的な情報が大事と考える。その場合人が大勢いるので、高く見えやすい位置に表示を行うことが必要。</p>	<p>問1と同じ</p>	<p>・すべての人が落ちついて避難することが重要。出入口に殺到しないよう、あわてないよう避難誘導を行ってほしい。その中で視覚情報を適切に見れるような配慮が必要。</p> <p>・安全な避難を徹底してほしい。難聴者は周りの人で判断するので、安全な避難誘導を行ってほしい。</p>	<p>・スマホで各個人に伝わるようなシステムがあればよいと考える。UDCASTというアプリがある。これは映画等で「音声」をスマホに聞かせると字幕表示、音声ガイド等を行うことができる。この仕組みを避難誘導に適用できればよいと思う。(事前登録が必要。)競技場の電光掲示板自体がUDCAST対応であればいいのではと思う。</p>	<p>問1と同じ</p>

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問2 競技場・観客席						
(1)情報伝達・方法		(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望	
<p>全国脊髄損傷者連 合会</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・誘導の情報としてはスクリーンへの文字情報、(視認性の障害がない)スマートホン・フリップボードによる、より正確で迅速な情報伝達が必要と考える。 ・観客がパニック状態を起こさないようにする冷静な避難誘導が必要である。 ・情報は多すぎても、少なすぎてもパニックが起きる可能性があるため簡潔に伝えることが重要と考える。 ・車いす使用者等は視認性があることから、競技場(屋根なし)からグラウンド内への退避が可能であれば、グラウンドへの動線も確保して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・火災発生時には、どのエリアで火災が発生し、避難動線を伝え、どのように避難するかを誘導するアナウンスが必要である。 ・ホール・アリーナ等上下移動を伴う観客の避難路としては、複数の避難路を設ける必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・迅速に屋外退避が可能となるよう、エレベーター等の非常電源の確保が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導に必要なスタッフの確保をすともとに、常勤のスタッフを配置し、避難誘導訓練を定期的に行うことが必要。常勤のスタッフというのは競技場の場合、イベント運営者が管理することになると思うが、その場合施設を知っている人がいない可能性があるため、イベントスタッフだけでなく施設側スタッフも配置してとの意味合いである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・競技場の新設・改修時には、非常事態に備えて安全な避難路を確保すると共に複数の避難経路を整備、計画を立てることが望ましい。

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問2 競技場・観客席					
(1)情報伝達・方法		(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
<p>全日本頸髄損傷者連絡会</p> <p>・基本は先の回答に準ずる。 ・トイレにいるときに災害が発生した場合、どうなりますか？(⇒火災であれば非常放送、地震であれば施設にもよりますが緊急地震速報等が放送され、トイレ内でも聞こえると思います。) ・放送での情報を得ることができたとしても、地震等であればトイレ内で倒れている可能性もあります。人によるトイレ内の確認を必ず行ってほしい。施設スタッフ、イベントスタッフには日頃から障がい者に対する教育を行い、このような場合でも適切な判断・対応ができるようにしてもらいたい。仮に人手が確保できても知識がないと対応できないケースも考えられる。</p>		<p>・火災、地震共に「どこで起きているか」「避難場所・経路」を伝えてほしい</p>	<p>・先と同じで電動車いすの重量は250kg程度までである。上下移動をどうするか、避難経路を確保してほしい。 ・上下移動に関わる部分の対応をどうするかを検討してほしい。</p>	<p>・避難経路は簡潔な経路としてほしい。 ・避難通路に関わる部分の段さをなくす。競技場等でグランド側に避難する場合も段差があると避難できない可能性がある。 ・基準通りではなく、実際にどのように避難を行うかを考えて避難時に使用する設備を設置してほしい。例えば車いすを設置する数も基準通りではなく、座席とあわせた数にする等。</p>	<p>・競技場には大型の電光掲示板等が設置されていると思う。このような掲示板はどこからでもよく見えるようになっていると思うので、これを用いて的確な情報を流せば誰でも情報を確保することができると思う。 ・競技場等の避難に関しては、一般の利用者と異なる避難経路になる場合が多いと思われる。車いすでも安全に避難できる経路を職員に把握して頂き、適切な避難誘導等を行えるようにしてほしい。</p>

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問2 競技場・観客席					
(1)情報伝達・方法		(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
問1と同じ		<p>・事前に配置図を表示しておくことが重要と考える。また図面と現状が合致したもので配置図を表示することも必要。色分けをしておけば避難時も“色”で誘導することができる。大型電光掲示板に配置図を表示し、避難場所を点滅させてわかるようにするのもよいと思う。</p>	<p>・あわてないで、パニックを起こさないような避難誘導を行ってほしい。また運営スタッフだけでは対応できないと思う。避難口周りの一般の人にも避難誘導に協力してほしい旨を事前に話しておく、スタッフ以外の人間にも協力を求めてもよいと考える。</p>	問1と同じ	問1と同じ
全国精神保健福祉会連合会					

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問2 競技場・観客席				
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
日本発達障害ネットワーク	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問3 ホテル・旅館					
(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望	
DPI日本会議	<p>・聴覚障害者への対応を配慮してほしい。TVでの表示、ストロボ設備、人による確認等で逃げ遅れを防いでほしい。振動機器も設置してほしい。</p>	<p>問1と同じ</p>	<p>・視覚障害者は音を頼りにしているが、昔の非常ベルだとその音で何も聞こえなくなってしまう。このような状況では一人での避難はできないので人的介助が必要。</p>	<p>・呼吸器障害者が宿泊した場合、スタッフ内での情報の周知徹底、それに基づく対応を行ってほしい。</p> <p>・これから新しくできるホテルスタッフに障がい者の特性の理解を周知し、それを踏まえた避難方法、訓練、マニュアルを整備してほしい。訓練には障がい者も参加する。</p> <p>・車いす使用者が高層階に宿泊している場合、一時待機場所が必要と思われるが事前に情報を提供してほしい。</p>	<p>問1と同じ</p>

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問3 ホテル・旅館					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
日本身体障害者団体連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊室にいるとき、人的対応は必要。特に逃げ遅れを防いでほしい。 ・ホテルで障がい者にあわせた設備(ストロボ、振動型の目覚まし時計)をチェックイン時に配布してくれるところがあった。このような配慮はよいと思う。 	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問3 ホテル・旅館					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
日本盲人会連合	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設のスタッフに視覚障害者が宿泊していることを理解してもらい、人的対応。 ・緊急放送(内容がわかる)音声 	<ul style="list-style-type: none"> ・「発生場所、発生源」と「避難方法及び避難場所」 	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターが使えないときの避難方法を知りたい。 	問1と同じ	問1と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問3 ホテル・旅館					
(1)情報伝達・方法		(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
全日本ろうあ連盟	<p>・宿泊室内に1人であるときが一番不安。フロントへのTELは使用できない。フロントから呼びに来てほしい。人に対応するしかないと思われる。</p> <p>・情報の一方通行が基本になっていると思う。繰り返しになるが宿泊室に1人であるときが一番不安である。人的対応、TVの画面切替等の対応を行ってほしい。</p> <p>・聴覚障害者用の振動式の目覚まし時計があるが、同じような構造のもので伝えるように検討してほしい。</p> <p>・宿泊室内は現状災害時の表示方法はないと思われる。一般のTVでは字幕設定があるが、ホテル用のTVはホテルシステム用のTVとなっているので字幕設定のボタンがあるリモコンがない。フロントに説明しないとリモコンを貸してくれない状況。ろうあ者への理解が不足していると思う。字幕は番組のテロップと重なると見えにくいときがある。</p>	問1と同じ	<p>・宿泊室に1人であるときの情報提供に対して配慮してほしい。</p> <p>チェックイン時にフロントで確認する等</p>	<p>・ホテル、旅館の室内における非常通報装置として、駅構内で設置されているような電光掲示板と同様のシステムを設置し、災害情報、避難方法を流すようにしてほしい。据え置き型でなくモバイル型にして、聴覚障害者の利用があったときに貸し出せるようにしてもよい。就寝時でも対応できるように、この装置に連動したバイブレーションもあるとよい。</p>	問1と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問3 ホテル・旅館					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカでは●●空港やファーストフード店などあらゆる施設で ストロボ式の火災警報器を見かけた。非常に普及しているように思われる。 ・●●ホテルは、タブレットが設置しており、フロントに手話で連絡がとれるようになっている。 ・宿泊室内のストロボ、音声等の案内が必要。東京都の設置基準にもありますがまだ普及していないと思う。トイレ、UB等全ての室に対して設置してほしい。1ヶ所では安心できないので。また大きく目立つような形状のもので知らせてほしい。 ・災害時に振動で知らせる設備もある。国内では現状一部のホテル等にとどまっているので、標準設置、義務付けを行ってほしい。 ・災害だけではなく、一般放送の情報が伝わらないことがある。例えば、ホテルの正月の館内放送で「14:00～餅つき大会があります」といったような内容が、難聴者に伝わらないことがある。音声情報を伝えるようにしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・命にかかわる部分の内容は確実に伝えて欲しい。 	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問3 ホテル・旅館					
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
全国脊髄損傷者連 合会	<ul style="list-style-type: none"> 音声、スマートフォン(メール等)、フリップボード、 旅館等においては、回廊で繋がれた「離れ」「コテージ」等で、それぞれの区画ごとに避難情報が容易に取得出来る環境が必要。 車いす使用者には、避難情報とともに避難介助が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の対応として感知器の誤作動防止のための点検を適時行い、スプリンクラー等の延焼防止の有効性を確認し、宿泊時に「避難をするときの情報」と「避難するための設備」を宿泊客に伝える。 自火報、スプリンクラーを誤報、誤作動防止で止めることはしない。 	<ul style="list-style-type: none"> 車いすを常用的に使用している「車いす使用者」にとっては、車いすは、体の一部であり、身体のみでの避難は最悪の事態と考える。車いすと一体で避難を考えて日常の避難訓練に役立ててもらふ必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> エレベーター等の上下移動には複数のルートを確認。火災の発生場所によりエレベーターの利用が困難となるケースが予測される。 	<ul style="list-style-type: none"> ホテル・旅館のユニバーサル化を図り、車いす使用者の外国人観光客の誘致を推進してください。

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

問3 ホテル・旅館						
(1)情報伝達・方法		(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望	
<p>全日本頸髄損傷者連絡会</p>		<p>・ホテル等の場合情報は放送等で得ることができると思うが、1人で外にすることは不可と考える。基本的には介助者が同伴している場合が多いが介助者不在時に災害が発生することもあるので人によるチェックを必ず行ってほしい。宿泊時に障がい者ということは把握できると思うので、必ず巡回してほしい。</p>	<p>・先の回答に準ずる、他の施設とも共通であるが、誤報等も考えられるので「避難の必要性の有無」を明確に伝えてほしい。</p>	<p>・従業員で車いすに乗せる場合、体格にもよるが一人ではできないと思う。複数人の介助が必要となる。その為にも従業員の日頃からの訓練も必要と考える。ベッドから車いすの移動は、脊髄損傷者であれば一人でもできる可能性はあるが、頸髄損傷者では不可と考えている。</p>	<p>・従業員の教育を徹底してほしい。災害時にも的確な行動ができるよう日頃からの訓練も重要と考える。</p>	<p>・避難用に使用する手動の車いすを準備してほしい。避難手段が増えることにもつながるので。</p>

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

						問3 ホテル・旅館				
(1)情報伝達・方法		(2)情報伝達・内容		(3)避難誘導・避難		(4)要望(設備・人的)		(5)その他要望		
問1と同じ		問1と同じ		<p>・宿泊室にいるときに災害発生の放送が流れると精神障害者はパニック状態になったり、こわい、不安を感じたりして、外に出られないケースが考えられる。室毎の確認を必ず実施してほしい。また、口で避難を促すだけでは動けないときもあるので、発見者が一緒に避難するようにしてほしい。このような内容をマニュアルに記載してほしい。</p> <p>・一般的な避難では身一つでの避難になると思うが、薬服用者の場合は状況に応じて可能であれば薬を持っていく方がよいと思う。東日本大震災時には薬がなく、支障をきたすケースもありました。</p>		<p>・ホテル側に近隣の精神科のある病院を確認しておきかつ連絡をとっておいてほしい。ホテル滞在で避難が長期に渡った場合すぐに対応ができると思うので。また、横になれるスペースを確保してほしい。</p>		問1と同じ		
全国精神保健福祉会連合会										

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問3 ホテル・旅館				
	(1)情報伝達・方法	(2)情報伝達・内容	(3)避難誘導・避難	(4)要望(設備・人的)	(5)その他要望
日本発達障害ネットワーク	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ	問1と同じ

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問4 これまでで良かったと思う配慮やサービス等	問5 災害への備え・工夫等	備考
DPI日本会議	<ul style="list-style-type: none"> ・問1でも述べた羽田空港の対応はよかったと思う。日頃から訓練を行っていると感じた。 ・●●ホテルは車いす、階段を避難できる器具が設置してあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者への災害対応の啓発もパンフレットを作成し行っている。障がい者自身以外にも介助者にも災害時の対応を啓発している。 ・連絡網を作成しており災害時には無事であることの連絡を取り合うように決めている。 ・近所の人と災害時にどうするかを話し合っている。自分は避難できないので家に待機し、近所の人是一次避難所に避難する。その後確認しにきてもらう。自分の家には食料、日用品等も備蓄しているのでそれをみんなで使えるようにしている。 ・マンションに住んでいるが災害時には町内会との連絡をとること、各階の責任者を決めておき住人の安否確認を行うよう取り決めている。避難訓練も行っている。 ・周辺の人に障がい者が身近にいることをアピールすることも大事であると考え。日頃から気にかけてもらうことで災害時にも生かせると思うので。 	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問4 これまでで良かったと思う配慮やサービス等	問5 災害への備え・工夫等	備考
日本身体障害者団体連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・空港の対応はよいと思われる。 ・ホテルで食事(バイキング)のときに料理をとってきてくれるサービスがあったり、ワゴンを貸してくれるところもあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・水、食料の備蓄 ・災害グッズの常備、レトルト食品を置いているようにしている。 ・電動車椅子用のバッテリーの常備 ・車椅子のタイヤをノーパンク対応としている。 	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問4 これまでで良かったと思う配慮やサービス等	問5 災害への備え・工夫等	備考
日本盲人会連合	<ul style="list-style-type: none"> ・空港、駅では人の手によるガイドが有効。空港に関してはローカル空港の対応はきめが細かい。大きい空港で同じ対応が難しい。 ・飛行機に搭乗するときの配慮（一般乗客とは別の入口から一番先に入ることができる。）はありがたい。（しかし降りるときは一番最後となるので不満。） 	<p>(私たちは役員なので)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鞆の中にラジオ、情報機器を持っている。 ・自宅に食料・水の備蓄、ジャケット、信号を送る設備等を玄関にまとめて置いている。他に水10L×4本、風呂の水張り等を行っている。 ・鞆の中にバンドエイド、飲み物、食料、視覚障害者とわかるベスト、予備の杖を常に携帯している。 	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問4 これまでで良かったと思う配慮やサービス等	問5 災害への備え・工夫等	備考
全日本ろうあ連盟	<ul style="list-style-type: none"> ・空港に設置しているIPADはよい。 ・手話のできる人を増やしてほしい。施設は忘れたが、手話のできるスタッフがいたときがあり、うれしかったことがあった。 ・駅でテロップに電車遅延等の状況がでるのはよいと思う。しかし、タイムリーにできていないときもある。そのようなときはツイッターの情報が一番いいと思う。 ・バス停で次のバスが何分でくるといった表示はよい。 	特になし	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問4 これまでで良かったと思う配慮やサービス等	問5 災害への備え・工夫等	備考
全日本難聴者・中途失聴者団体連合会	<ul style="list-style-type: none"> ●●●空港でエレベーターにテロップが扉上部(2カ所)に設置されていた。聴覚障害者が釦をおすと、テロップに「今そちらに向かっていきます」の表示がでるものであった。運用面での検討(釦は押し続けるといけない、対応する人が来る時間がかかる、テロップの位置が見えにくい(気づかない)等)はこれからと思うが非常によいと思う。 ・先にも述べたがコンシェルジュが災害時にも対応できるようにしてほしい。 ・ホテルで料理の御品書きに解説文を書いてくれたことがあった。健常者であれば「この魚は○○産」といったような耳で聞く内容を、スタッフが御品書きに手書きで記載してくれ感動したことがあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「耳が不自由です」と記載しているタグ、補聴器の電池、笛、磁気補聴器(雑音に左右されない)、情報端末のバッテリー、等を常に持ち歩いている。 ・勤務先に手動式の充電器を置いている。 ・携帯電話の災害伝言板サービス(スマホ等で書いたものが伝言できる)に登録している。 	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問4 これまでで良かったと思う配慮やサービス等	問5 災害への備え・工夫等	備考
全国脊髄損傷者連 合会	<ul style="list-style-type: none"> ●●●ホテルは障害者対応の宿泊室を10室有している。このようなことが「観光誘致」にもつながると考える。 ●2020東京オリンピックパラリンピックのアクセシビリティガイドラインに沿って、障害のある人や外国人観光客等が安心して快適にできるシステム作りに官民一体となってコラボレーションすることが必要です。障害者・高齢者も重要な顧客です。交通機関や宿泊施設のユニバーサル化は、国の「観光立国」とも合致するものです。 	<ul style="list-style-type: none"> ●外出時には、携帯は必需品であり、自らの責任で情報弱者から脱却する自己努力が求められる。 ●「自らで守ること」が基本と考える。東日本大震災の教訓と考える。 ●施設は補完的なものを提供して、耐震化・難燃性・避難路の確保・飲料水・食料等の備蓄等の備えを怠らないことが大事。 	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問4 これまでで良かったと思う配慮やサービス等	問5 災害への備え・工夫等	備考
全日本頸髄損傷者連絡会	<p>・さきにも述べたが、ベッドから車いすの移動が一人ではできない。ホテルによっては無料で手伝いをサービスしてくれたことがある。逆にそのようなサービスは行わないというホテルもある。極端に手間がかかることであれば、こちらも理解できるがこの程度のサービスは行ってほしい。また、日ごろからこのようなサービスを行っていれば災害時の避難もスムーズな対応ができるのではと考える。</p> <p>・車いす使用可能な宿泊室を増やしてほしい。現状は車いす使用者を想定していないことが前提となっている。普通に利用できるようにユニバーサル化を進めてほしい。自分の知っている範囲では、以前●●ホテルには車いす使用可能な宿泊室が20室設置されていた。</p>	<p>・携帯に関しては持っていることが前提と考えるが、情報を使いこなせるかが大事と考えている。</p> <p>・一般的であるが、食料の備蓄は行っている。</p> <p>・予備の車いす(手動)を持っている。日頃からタイヤの空気等は確認し緊急時にも使用できることが肝要と考える。</p> <p>・今住んでいるマンションは2方向避難が確保されており、安心できる。複数の手段を持っていることが大事と考える。</p> <p>・生活に必要な最低限入れたバッグを玄関に置いている。</p> <p>・災害に対しての障がい者の情報も増えてきている(昨年仙台市で開催された第3回国連防災世界会議等)ので、最低限の手段(上述のようなこと)を行えるようにしている。まだ行うことはたくさんあると思うので今後も対策をすすめていきたい。</p>	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問4 これまでで良かったと思う配慮やサービス等	問5 災害への備え・工夫等	備考
全国精神保健福祉会連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・空港、競技場等で優先的に席へ誘導してくれるのありがたいと思う。移動に時間を有することがあるので。先にも話したが周りの人(第3者)に声掛け等で協力を得られればさらによいと思う。 ・精神障害者の方が旅館で具合が悪くなったことがあった。そのときに旅館の人が精神科のある病院を前もって調べてくれており、すぐに紹介してくれたこともあった。心強く感動した。また地域で対応してくれていると感じた。 ・駅ホームで待合イスと駅員控室の間で、精神障害者の方の具合が悪くなりうずくまってしまったことがあった。そのときに誰が対応したかはわからないがパーテーションのようなもので待合イス側にいる人の視線を遮ってくれたことがあった。視線を遮るものがなかった場合、回復後に他人から好奇の目で見られるケースが間々あるのでこの対応は非常にうれしかった。周辺に工事を行っている箇所があり、そこで使用していた資材を利用したと思われる。その場にあるもので対応することもよかったと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬を服用している人は常に数日分を携帯している。また薬手帳も持っている。 ・他は一般の人と同じ(食料の備蓄、災害グッズ等を持っておく等) 	

障がい者等のニーズ等調査結果とりまとめ

平成29年1月5日 現在

	問4 これまでで良かったと思う配慮やサービス等	問5 災害への備え・工夫等	備考
日本発達障害ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・人の介助や具体的な情報提供が不安を取り除く重要な要素なので、それが受けられることでよかったと感じられる。 ・発達障害者の方には聞く内容をしっかり整理しておくことで回答を正確に得られる。 	特になし	